

JinSatoの地下室工房

じん さとう
Jin Sato心機一転
よろしく

2004年になり、心機一転、新しいタイトルで、JinSatoの地下室工房が始まります。

LEGO MINDSTORMSの範囲を超えて、工作全般についていろいろと書いていきたいと思ひます。

ところで何で地下室工房かという、自分の工作室は本当に地下室にあるのです。地下といつても窓もあって、外からの光も入ってくるので、半分地下なのです。

ガレージキットという言葉がありますが、車のガレージを工作場にして何かのキットを作ったりするイメージですが、私の住んでいるオタワは真冬になると氷点下20度を越す寒さで、この原稿を書いている1月上旬は体感温度がマイナス30度ちかくまで下がりますので、ガレージでは寒くて作業ができないのです。

ですから、地下室で工作ということになっているのです。カナダでは一般的な家には地下室があるのです。そして、夜な夜な地下室にも入り、作業をしているわけなのです。

さて、地下室工房ではアマチュア精神で、いろいろなジャンクを使ってみたり、いろいろな工作に挑戦してみたりしていきたいと思ひます。

■ 大人の工作 ■

昨年はニュースで「工作船」という言葉を耳にしました¹。そう言うところに、「工作」という言葉が使われるとちょっと心外な気持ちを私は持ってしまいます。

はっきりと「スパイ船」とか言ってくれたほうがわかりやすいんじゃないかと思ひますが、テレビや新聞ではどうして「スパイ」という単語を嫌うのでしょうか。

ま、それは、端において置くとして、自分がよく行くお店のお話です。

このお店は木工&金属加工用の道具を売っているお店です。そこに行ったら、60~65歳くらいの白人の夫婦が小型旋盤の前について、旦那さんが奥さんに一生懸命旋盤の説明をしていました。旦那さんは旋盤が欲しくてたまらないのですよね、きっと。

こういう風景を見ると、あ~、大人の工作って素敵だな~、自分も歳をとったら、そうなりたいな~なんて思ってしまった。旋盤の原型は1780年頃にイギリスのモ

ーリスと言う人²が作ったそうですから、200年以上の歴史をもつ道具なんですけど、やはり、一般生活では必要性が低いのか、一家に一台というまでには普及してません³。でも、大人の工作にはあっても良いのではないかと思ひます。(^^)

また、ラジコンなどを主に扱っているお店に行くと、ここもまた、大人(40歳以上)の人が多くて子供の姿はあまり見かけません。工作というと、子供のやることというようなイメージを持つ人もいるかもしれませんが、子供はテレビゲームがメインになってしまったのでしょうか？

大人の工作は、工作の工程そのものも楽しんで長い時間が掛かって、世の中に1つだけの、オンリーワンを作る楽しみを味わう物ではないかと思ひます。大量生産されたものの溢れているような時代の中で、時間をかけて世の中に1つのオンリーワン、なんかいい感じじゃないですか？

大量生産と言うと書きたくなるのが、大量消費という言葉。先進国は何処も不況

という状態が続いていますが、ニュースなどでは消費の伸び悩みなんて言葉も聞かれます。1~2年に1度の割合で日本に行く自分ですが、その度に思うのが、日本の都会には物が溢れていて感じるのです。もう、溢れている状態なのにこれ以上、なにも買えないくらいいっぱいになっている。それなのに、もっと消費なんて、いや、もう、ごめんとはいいたいんじゃないかと思ひます。

あれれ、またまた、脱線してしまいましたが、大量生産のまったく逆、大人の工作で作る物は、極少数生産、家内工業じゃないけど、自分の机の上で生産する、卓上生産な物で、同等のものが大量生産されて安く売られているのにもかかわらず作ってしまう、これも、大人の楽しみ方なのかもしれない。ネジ1本から自作しちゃうのもいいじゃないですか。(^^)

個人的な意見ですが、競馬にも天皇杯があるくらいなことから、大人の工作の世界にも、天皇杯があって、日本中の大人が頑張った物を展示表彰してくれるような機関があっても良いと思ひますよね。

なんだか、いきなり脱線しまくってしましますが、一つひとつ自作を楽しみながら物作りをするというアプローチと違うアプローチとして、設計をして、それを少量生産してくれるショップに注文して、部品を作ってもらい、組み立ては自分で言うという楽しみ方もあるかもしれません。

ある意味で、分業化が進んだ現代的な大人の工作と言うかも知れません。特に今の日本にも個人を相手にしてくれるショップも増えてきているようですから、この流れは今後大きくなるかもしれませんね。

自分はこのような楽しみ方はプリント基板や特注のネジなど以外では味わったことがないのですが、いつか挑戦してみたいと

1：なんとオタワでも日本で放送されているニュースなどのテレビ番組がある程度見れるのです。

2：参考：大河出版、「旋盤のテクニシャン」

3：ま、一家に一台旋盤がある社会を想像すると結構凄いかもかもしれませんね。コンビニでバイトに売られたりして。(笑)